

令和5年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和5年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3年	学校	51	61	33	31	6.3	18.6	9.1
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	46	53.3	41.0	39.3	38.5	38.9	17.4	5.8	19.8	12.3	11.8
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2年	学校	76	56.8	47.4	41.7	33.9	43.2	13.6	2.9	15.7	13.8	12.9
	大阪市	—	66.7	54.6	52.2	40.6	57.2	8.3	3.2	11.2	10.4	8.6
	大阪府	—	66.8	54.2	52.2	40.2	57.1	8.2	3.5	12.0	11.3	8.9
1年	学校	52	52.5	49.8	51.4	61.3	55.6	9.9	5.2	9.1	1.6	3.4
	大阪市	—	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	9.1	1.9	4.3
	大阪府	—	60.8	—	54.7	—	64.1	9.6	—	10.3	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	47	79.1	—	86.8	—	110.3	—	72.8	—
	大阪市	—	101.3	—	107.7	—	137.9	—	102.2	—

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャト ルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			81	26.73	39.05	45.30	74.88	—	8.41	178.22	18.74
2年 男 子	学校	28.02	26.73	39.05	45.30	74.88	—	8.41	178.22	18.74	36.00
	大阪市	28.62	26.21	42.04	51.65	79.05	—	8.05	194.78	19.88	40.79
	全国	29.02	25.82	44.16	51.22	78.07	—	8.01	197.02	20.40	41.32
2年 女 子	学校	22.29	20.57	42.94	45.60	44.58	—	9.23	162.50	11.63	43.76
	大阪市	23.11	22.12	44.78	46.25	52.11	—	9.03	165.29	12.10	46.99
	全国	23.15	21.62	46.27	45.65	50.70	—	8.95	166.34	12.43	47.22

令和5年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

- ・調査したすべての教科の正答率が全国平均から大きく下回っている。

教科平均正答率(学校/対大阪市比/対全国比)

国語(61/0.91/0.87) 数学(33/0.67/0.65) 英語(31/0.70/0.68)

<生徒質問紙より>

- ・生徒の「自己有用感」「自尊感情」の項目が低く、「学校が楽しい」と回答している生徒の割合も低い。

・「1日の家庭学習時間」も少ない。

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒の割合は、98.2%と、全国平均よりも高い。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

- ・調査したすべての教科の平均点が大阪府平均から大きく下回っている。

教科平均点(学校/対大阪市比/対大阪府比)

国語(53.3/0.86/0.86) 社会(41.0/0.76/0.75) 数学(39.3/0.76/0.75)

理科(38.5/0.81/0.81) 英語(38.9/0.72/0.72)

- ・経年で見ると、国語・数学・英語においては、昨年度の大阪府比と比較すると向上している。特に数学においては、0.06ポイント上昇(0.69→0.75)

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus(1年生)

教科平均点(学校/対大阪市比/対大阪府比)

【2年】国語(56.8/0.85/0.85) 社会(47.4/0.87/0.87) 数学(41.7/0.80/0.80)

理科(33.9/0.83/0.84) 英語(43.2/0.76/0.76)

【1年】国語(52.5/0.87/0.86) 社会(49.8/0.90/) 数学(51.4/0.93/0.94)

理科(61.3/0.99/) 英語(55.6/0.87/0.87)

- ・平均正答率は、1,2年生ともに大阪府と比較しても下回っているが、1年生の数学、理科については、ほぼ大阪市平均並みの結果であった。

- ・2年生の英語が課題で、大阪府の平均の8割以下であった。

○大阪市英語力調査(GTEC)

- ・大阪市のスコアと比較すると、すべての項目で対大阪市比が0.8以下となっている。

・また、CEFR A1 レベル相当以上の割合は 27.7% であった。(大阪市平均 54.3%)

- ・特に「話すこと」は対大阪市比が0.71と、最も低い。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

- ・男子の「上体起こし」は全国・大阪市平均を大きく越えている。しかしながら、「反復横跳び」「立ち幅跳び」に課題が見られた。

- ・女子の「反復横跳び」は、ほぼ全国平均並みであったが、それ以外の種目は大阪市平均を大きく下回っている。

・生徒アンケートの結果から、本校では体を動かすことを肯定的に捉えている生徒が多い。しかしながら、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、大阪市平均を超える項目が男子で1種目しかないことが課題である。来年度に向けて、生徒が継続的に体を動かすことのできるような行事の計画を立てたり、多くの生徒が昼休みに運動場で体を動かせたりするような工夫をしていかなければならない。

【今後に向けて】

・本校の生徒は、①理解する力が弱く、自分で考えることが苦手 ②分からぬところあきらめてしまう(集中力が持続しない) ③自信がないのか、発表など自ら行えない生徒が多い という課題がある。そこで、これまでの調査結果を参考にして学校教育改善「アクションプラン」を策定し、取り組み内容を明確化して、教育活動を推進している。

・今年度も「生きる力・夢みる力の育成」を重点目標に、学力向上に関わり教育課程委員会を中心に、生徒一人ひとりの基礎・基本の学力を向上させるため具体策を講じてきた。また、子どもが子どもらしく学び、教師が教師らしく仕事をし、保護者が保護者らしく学校の挑戦に協力する「協同的な学習」を中心としての学校づくりをめざして取り組んだ。

・これまでの調査結果からも、本校の生徒はここ数年、すべての教科で正答率が低い傾向にある。この課題に対して、生徒が自分の考えを伝え合うことだけで終わらず、課題に向き合う活動を通して、生徒が自分自身の考えの深まりを実感するための指導方法の工夫とともに、生徒の読解力の向上に取り組んでいく必要がある。

・また、各種アンケート結果から「生徒の自尊感情・自己有用感」の項目や、「学校が楽しい」の項目が他の項目よりも低いことがわかる。そのために本物・一流に触れ将来の夢を抱く取組(大正中央Dream Project)で進路選択や目標設定のきっかけとして、生徒の自尊感情・自己肯定感の向上を図っていく。